



「横山校長先生と親睦を 深める会」レポート！

PTA イベント企画委員会による「横山校長先生と親睦を深める会」が、去る 6 月 7 日に行なわれました。藤尾運営委員長、五味 PTA 会長をはじめ約 40 名の保護者の方々が参加され、ときに笑いも交え、和やかな親睦会となりました。横山校長先生の、とても実直ながらも親しみやすいお人柄をうかがいえた、質問・応答形式で一時間弱の会の要約をご紹介します！



(横山 勝寿 校長先生)

(進行・質問 : 三野 イベント企画委員長)

Q. 校長先生の自己紹介として、ご出身、ご略歴、日本での専門教科などについてお聞かせいただけますか？

みなさん、こんにちは。ボストンに来て早二ヵ月半になろうとしています。時間が経つのは本当に早いです。

出身は、鳥取県鳥取市です。日本で一番の過疎県です。家が兼業農家で、四人兄妹の長男として生まれました。妹が三人おります。鳥取東高校から大学は岡山で、その後、兵庫県宝塚市で就職しました。ずっと故郷の周りをまわっていたので、いずれは帰郷して家業の農家をやりたいと思っています。宝塚市で教職につき、30年間を現場の教員として勤務し、その後の8年間を教育委員会でお世話になりました。専門教科は中学数学で、生徒

指導の担当も8年間経験しました。これはとてもしんどい体験でしたが…。

Q. 先生になられたきっかけなどについてお聞かせください。

教職についてから、家内や父親によく言われたのが、「テストの結果の〇×しか見ないのか？その過程は見ないのか？」ということでした。私の父親は、とてもお酒が好きでして、お酒さえ飲まなければ本当に尊敬できる父なのですが、尋常小学校の時に近くを走る山陰本線の汽車に魅せられて、汽車が好きで好きで独学で勉強して汽車の運転手になり、最後には大阪機関区のディーゼル機関車の運転手になった後に無事定年退職し、今でも元気でおります。本当に夢を全うしたような人生を歩んだ尊敬する父です。昔は、「なんであんなにお酒を飲むのかな？」と思っていましたが、『血は争えない』と言いますが、私も歳をとるにつれてお酒が好きになりました。あるとき、その父に「おまえ、〇×で子供の評価をするのか？それで本当に教師が務まるのか？」と言われて、それが私の教師としてのスタートになりました。また、教員になりたての頃、先輩の先生から「足で稼げ。」とよく言われました。「年一回の懇談だけでは分かるわけがない。いいことでも悪いことでも出かけて行って『ありのままのかかわり』をもつことが大事で、その中から、子供に何が欠けているのか、何を（教えていったらいいのか）…を学んでいくことが教師の原点じゃないかな。」と言われ、私もその事を38年間守ってきました。そして、その先輩に言われた教訓が本当のことだったということを経験させていただきました。



《次からはボストン日本語学校に関連しての質問です。》

Q. ボストン日本語学校に来られることになった経緯についてお聞かせください。

文科省(文部科学省)からの派遣の指令で、はじめて、「へえ、ボストンですか?」というわけだったのですが(笑)。38年教職を勤め上げて、定年後、学校厚生会という、学校の先生を対象に福利厚生を行なっている機関で嘱託の仕事をしていました。ある日、以前お世話になった宝塚市教育長より電話で、「国の機関でもある、シニアが在外教育施設で働くコースを受けてみないか?」という話があり、妻の支援もあって試験を受け、こういう運びになりました。

Q. ボストン・アメリカについての印象はいかがですか?

まだ(渡米後)日が浅いのですが…。まず、市内を見学して一番感じたことは、自然が豊かで、その自然をとっても大切にしているということです。健康のために、毎朝5時半から6時頃まで近くの池のほとりを30分程度ウォーキングとラジオ体操をしています。これを帰るまで毎日続けるのが目標です。このときなど、リスやウサギ、鳥(「何の鳥なんですかね? (笑)」)などの動物と本当によく遭遇しますが、鳥も常につがいでいてとてもいじらしく、みな逃げないんですね。最近よく動物と目を合わせることがあります(笑)。現在は徒歩通勤をしていますが、早く運転免許をとりたいです。来週が試験なので、来週以降はどうか話しかけないでください(笑)。



Q. ボストン日本語学校に対する印象はいかがでしょう? 日本の学校とはずいぶん違うと思うのですが。

以前に、別の日本人学校に行かせていただいたことがあって、そこは日本に準じたカリキュラムでやっていたのですが、補習校というのは、週一回ということで、指導要領にあるエキスの部分—非常に濃い内容を土曜日に授業してその後の一週間の宿題で補習、という形で、保護者と二人三脚で指導を進めていかなければならないと

いうシステムになっています。そこで、私が非常によく感じているのは、保護者の皆さんが子供と一緒にになって、担任の先生と二人三脚で子供をしっかりみていこうとよくがんばっているな、ということです。またその他、この週一回の学校・授業を支える組織がしっかりしているということですね。安全管理もそうですし、子供の手伝い、行事の運営など、非常に組織だっけ行なわれています。今の日本語学校があるのは、保護者の皆さんのお力添えがあつてこそだと強く感じています。



Q. まだ来られて日が浅いとのことですが、これから在任中に「ボストン日本語学校をこのように改善していこう」などという目標などがおありでしょうか?

いえ、今のところありません!(会場、笑)そもそも、赴任してたかが2ヶ月半なので、ここで私が「ああしたい、こうしたい。」というようなおこがましい事はとても言えません。ですから、まずこの最初の一年間を子供たちと一緒に生活させていただく中で、こうあつて欲しいな、子供たちの願いはこうあるべきではないかな、ということが少しずつ見えてくるのではないかなと思っています。ですから、この一年間が私にとっては一つの勝負だと思っております、それを私の中でまとめ上げたものを、また来年、再来年に生かしていきたいと思っています。またその時には、保護者の皆様のお力添えをいただければと思っています。

Q. これから夏に向けて、日本語学校から日本の学校へ体験入学をする生徒が多くいると思いますが、先生の勤務されていた学校で体験入学を受け入れられた経験がおありですか?

はい、あります。宝塚市の中学校で、私のクラスではありませんでしたが、女子生徒を一人受け入れしました。やはりニューイングランドの補習校からだったと思いますが、お医者さんのお子さんで、中学3年生で高校受験をするために帰国される予定があつて、中1と中2のときに体験入学されておりました。その後、帰国されて中

学から公立高校を出て、確か帰国子女枠か何かで東大へ入られたように聞きました。そのように学力は非常にありましたが、生徒指導の面で、ピアスの件で少し問題になったことがありました。当時私が生徒指導をしていましたので、保護者の方とお話をしたところ、「先生は『郷に入っては郷に従え。』とおっしゃいますが、この子の社会ではそれ（ピアス）が普通のこととして生活してきたのですが、それは受け入れてもらえないのでしょうか。受け入れるべきなのではないでしょうか。保守的ですね。」と言われました。学校長にも相談して、すったもんだしたことを覚えています。結果的には、『登校中の時間帯はピアスを外す』ということで指導し、やっと合意してもらえました。後にスペインにいたときに、赤ちゃんが生まれたらすぐにピアスの穴をあけることが普通に行なわれていることを知り、それはそこでは普通の習慣なんだなということを知りました。以前の日本は、このように保守的で異文化を排除する意識が強い傾向がありました。今は、色々な面で少しずつ変わりつつある、ありのままを受け入れようという姿勢になりつつある、とは思いますが、やはり、学校の生徒指導の立場としては、「学校の規則を守る」ということを



徹底させる、そうしないといずれ大きな全体の生活の乱れにつながるのです、そういう姿勢は変わってないかもしれません。

Q. これから体験入学をさせる保護者として、やはり受け入れ側の学校規則を守る、ということは心構えとして持っておいた方がいいのでしょうか？

そうですね。そうしていただければ、少なくともトラブルになるのは避けられると思います。

Q. 日本の学校側の受け入れ態勢はスムーズになってきているのでしょうか？地域によっても差があると思いますが。

現在は（以前に比べて、体験入学を）受け入れやすい環境になっていると思います。そもそも子供たちは、外国から来る子供たちに対して異質と感ずることは少ない

と思います。すぐ友達になったりして、もともと大人より受け入れやすい傾向にあります。

地域によって差はあると思いますが、以前は受け入れないという地域もあったようですが、今はほとんどの地域が受け入れ可能になっているだろうと思います。



Q. 先日、映画「ハーフ」上映会を行なったのですが、この映画はご覧になりましたか？帰国子女や日本に滞在しているハーフの子供たちは日本語学校の子供たちに重なるところが多いと思うのですが、感想はいかがでしょう？

はい、見ました。今回の映画もそうですが、大分昔に、題名は忘れましたが在日韓国人の映画があつて、非常に印象的だったのを覚えています。その映画の中で、男の子が「自分は何者だろう？」と何度も訴え、「日本人でもない！韓国人でもない！」と叫んでいたのが印象的で、そういう人たちをどうやって理解し受け入れていくかを考えさせられる映画でした。

私も、20歳後半くらいのときに初めて同じようなお子さんを受け持ちました。それまで、自分の身近な問題ではない、自分のクラスには同じようなお子さんはいないと思っていましたが、進路指導の時にそのお子さんが在日韓国人であることが判りました。そのとき、保護者の方から色々なお話をうかがいました。その後、ご本人は教員になり、今でも交流があります。その頃までの宝塚市ではやはり差別意識などもあり、国の指導でも差別意識解消の教育は行なわれていましたが、その時初めて近くにそういう方がいるということに気づかされました。その時思ったのは、自分の中で（そういう人たちを）受け入れて理解をしていく必要があるということでした。

日本も、経済が上向きになり、これからますます外国からの人が増える傾向にあると思います。グローバル化していく中で、世界の色々な国の人たちが手をたずさえて一緒にやっていかなければいけない社会になってきています。日本もそういう時代に対応していける取り組みが必要だと思います。

Q. 最後に日本語学校保護者へのメッセージや、保護者へのお願いなどがございますか？

自分たちの子供たちが、世界を舞台に活躍してもらう、日本とアメリカとの架け橋になってもらう、そういう人材の育成がこれからは必要だと思います。また、『子供は親の背中を見て育つ』と良く言われます。保護者の皆さんが、PTAなどの活動を通して、みんなで協力し、支えあう姿勢を示すことは大事なことです。

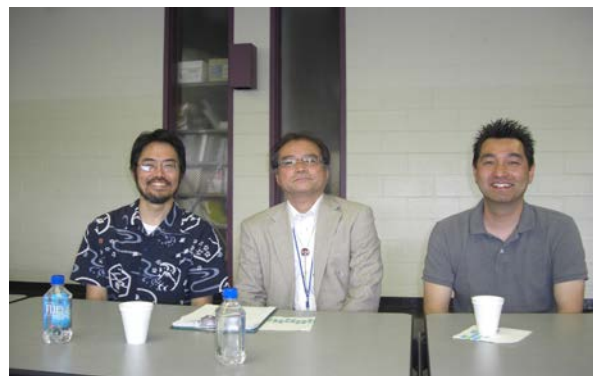
自分もそうでしたが、「自分の子供さえよければ…」という意識は誰にでもあることなのですが、結果的にそれだけでは何ともならないと思います。それはめぐりめぐって自分に返ってくるような気がします。世間で言う「いい学校」に行きました、「いい会社」に入りました、いかにもすばらしく思えるようですが、それが全てじゃないですね。我々は、どこかで誰かにお世話になっている—それをどこかで返していくという姿勢が大事なんじゃないかなという気がします。もっと若かったらこんなことは言わないのですが、今まで少し長く生きてきて、そう実感するのです。ですから、自分も何かできることでみなさんに恩返しをしていきたいという思いでいっぱいです。また、今しんどい思いをしている方がおられたら、しんどさを一緒に乗り越えていこうという思いで、みなさんも頑張っていただけならと思います。

あと、これは余談になりますが…、定年退職をしたときに、家内と一緒に趣味がないということに気がついて一緒に乗馬を始めました。始めて半年もしないでまだ馬で走れもしないうちに、乗馬クラブでモンゴルを馬で走るといふ旅行があつて、思い切ってついて行ってみました。そうしたら、もう、やみつきになりました(笑)。モンゴルの草原で毎日野性的な生活をし、原始的な小さい蒙古馬、この馬は非常に良く分かっていて人を見ているのですが、これに2、3時間乗りっぱなしという旅行で、おしりが「ずるむけ」状態でした。

手綱の左右を間違えて、止まるつもりがどんどん走って行ってしまい、その時はまさに競馬の気持ちを体感しました。思い切って行ってよかったです。



と、まあ、そういう趣味があるのですが、もしこの(ボストン)近辺で乗馬の練習ができるいい場所を知っている方がいらっしゃったら教えていただけると嬉しく思います。健康管理の一環にしたいと思いますので。



五味PTA会長 横山校長先生 藤尾運営委員長

PTA執行部よりお知らせ

文化祭当日ヘルパー大募集！締め切り間近！

10月25日(土)開催の第12回文化祭では当日ヘルパーを募集しています。申し込みは9月20日が締め切りです。本日発行のe-Bostonをご覧ください。

第2回PTA総会のお知らせ

日時：10月18日(土) 午前10時～11時
場所：保護者控え室(2階カフェテリア 予定)

2学期 今後の予定

9月20日	幼稚部運動会 (予備日 9/27, 10/4)
10月11日	「ELL/ESLクラスの実情と 家庭でのサポートに関する セミナー」
10月18日	第2回PTA総会 幼稚部秋祭り
10月25日	第12回文化祭 ブックフェア
11月1日	授業参観(幼/日/小4~6) 漢字検定
11月8日	授業参観(中/高/小1~3)
12月13日	なかよし発表会
12月20日	2学期最終日